

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	緑肥作物導入・雑草生態解明による低コスト環境保全型生産技術		
研究代表者	露崎 浩	役職	教授
フリガナ	ツユザキ ヒロシ	学位	学術博士
学科等	アグリビジネス学科	Eメール	tuyuzaki@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)			
主な共同研究者(学外)			
研究の内容			
<p>ダイズやムギ類といった畑作物の生産では、低コスト・多収生産の技術が求められている。これらの土地利用型作物は広大な農地で栽培されるので、環境への負荷の少ない環境保全型の作物生産も求められる。</p> <p>このような要求に応える対策の一つに緑肥作物の導入がある。緑肥作物を作付け体系の中に導入することで、畑圃場の排水性が低コストで改善される可能性がある。また、緑肥作物のすき込みは土壌の有機態窒素を増加させる。有機態窒素からの窒素の河川流出は、化学肥料を施用した場合に比べ著しく少ない。</p> <p>畑作物の多収を図るうえで、雑草の防除は欠かせない。その雑草を、除草剤に依存せずに防除するためには、雑草の生態を栽培管理作業(耕起の時期、施肥の位置等)との関わりにおいて解明する必要がある。</p> <p>本研究では、導入する緑肥作物の選定、緑肥作物による土壌の排水性改善等の評価、ならびに雑草の生態解明を行い、低コストで環境保全型の畑作生産を実現させる技術を開発する。</p>			

研究の独自性・アピール点

緑肥作物および総合的雑草防除法を畑作生産と結びつけたことに独自性がある。また、このような研究を、ヘクタール単位の大きな面積で、かつ、長期に継続して実施する点も特徴である。

期待される成果・波及効果

ダイズやムギ類は人類を養う極めて重要な畑作物である。その一方、これらの畑作物の日本における自給率はきわめて低い。そこで、本研究は、人類の持続的な生存、および、日本の食糧安全保障の向上に寄与する。また、土地利用型農業が広く行われダイズやムギ類の一大産地である東北地方および秋田県の発展に貢献する研究になると期待される。

関連する主な業績

露崎浩・富田麻未・嶋田浩・宮入隆. 2011. ヘアリーベッチおよびコムギの植栽・すき込みが雑草の成長とダイズの収量に及ぼす影響. 日本作物学会東北支部報54:49-52.

キーワード

環境保全型畑作, 総合的雑草防除, ダイズ, 多収, 低コスト, ムギ類, 緑肥作物